

11月22日（金）、関西学院会館において、産業研究所×日本貿易振興機構（JETRO）×産経新聞シンポジウム、「イノベーションと海外展開 2025年大阪・関西万博を見据えて」を開催いたしました。

産業研究所長の高林喜久生教授による開会あいさつのあと、第一部では日本貿易振興機構大阪本部長の根本裕之氏による特別講演「関西スタートアップ エコシステム構築とジェトロの役割」、株式会社パリティ・イノベーションズ代表取締役の前川聡氏による特別講演「次世代技術としての現実拡張が目指す未来～AR、MRを超えて～」、つづいて「万博の成功と関西経済」と題した、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会理事・副事務総長の森清氏による基調講演が行われました。

第2部では「海外展開と10年先を見据えた技術とビジネスモデル」と題したパネルディスカッションに、第1部の講演でお話いただいた根本裕之氏、前川聡氏、森清氏と本学商学部4回生で株式会社ライズアース代表取締役の北森聖士氏に登壇いただきました。産業研究所のアンナ・シュラーデ准教授がコーディネーターとして加わりビジネスの海外展開、海外への販路拡大のテーマとともに、2025年に開催が決まった大阪・関西万博との相乗効果を念頭に、世界に通用する先を見据えた技術、ビジネスモデルを企業がいかに構築するか、人材の育成に大学がいかに貢献するかをテーマに幅広い視点から意見交換が行われました。

第2部終了後は、登壇者・企業関係者・学生の意見交換、交流促進を目的としたレセプションが開かれました。また、パリティ・イノベーションズ社より、空中映像の装置が展示され、実際に体験することができました。参加者と登壇者との交流で、直接お話をうかがえる大変貴重な機会となりました。

■参加者：187名（うち交流会参加者81名）

